

二月 今月の御教え

日柄方位は見るにおよばぬ。普請作事は、使い勝手のよいのが、よい家相じゃ、よい日柄というのは、空に雲のない、ほんぞらぬくい、自分に都合のよい日が、よい日柄じゃ。いかに暦を見て天赦日じゃと言つても、雨風が強うては、今日は不祥のお天気じゃと言つてはないか。日のお照らしなさる日に良い悪いはないと思え。

……金光教祖御理解 第六十五節……

解説 この『御教え』は「天地金乃神様」が、難儀に苦しむ我々人間を救済するために「教祖生神金光大神様」を

差し向けられて、私達に伝えようとなされた『御教え』の最たるものであります。

「日柄方位」というのは、今日では信じ難い事ではありますが、当時の日本に於いては、上は朝廷から下は一般庶民まで固く信じられていたものであり、学者にとつても学識の一端であり、遵守すべき常識であつたわけです。しかし、教祖様はそのような社会通念に反し「日柄方位こそが、人間の難儀の根本である！」と論破したのであります。そして、その理由を説いたのが、この御教えであります。即ち、暦を見て「吉日！」じゃ「最良の吉日の“天赦日”じゃ！」と言つても、その日が、雨風が強ければ、棟上げ等の普請は出来難いものです。逆に暦では“凶日”じゃと言つても、空に雲のない青空の本来に暖かい、都合のよい日は、天地金乃神様から見れば、よい日柄“吉日”じゃとの思し召しであり「天地金乃神の司るこの大天地の間には「良い悪い」はない。毎日が命を育む天地自然の豊かな恵みの良い日、吉日である」との極めて合理的なまさに天地の親神様ならではの御教えであります。

なお、今年(西暦)は明年の平成二十八年四月に西条教会設立百十年の記念祭を控えた、大切な御年でありますから共に一層信心の稽古に勤しみ、大神蔭を頂こうではありませんか。